

令和3年度第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議概要

日時：2021/11/16 14:30～16:30

場所：議会棟A・B会議室

出席委員：熊田副委員長、大炊委員、川名委員、山内委員、加藤委員、渡辺委員

【議題1】第2期我孫子市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標とKPIについて

基本目標1. あびこを支える産業を応援し、いつでも働けるまちづくり

(委員からの意見)

- ・数値目標の「法人市民税額の増加額」が1,000万円程度というのは、目標としては少ないのではないか。
- ・KPIの「創出した産業用地で働く市民の数」が50人は少ないのではないか。
- ・農家が自身で野菜をアピールする時代だが、我孫子はそれが弱い。
- ・我孫子の農業は多品種生産であり、これといった特産品が無いとよく言われる。しかし、多品種生産も立派な武器になる。特産品が無いことにいつまでも悩むのではなく、多品種生産を活かしていく施策を考えても良いのではないか。

基本目標2. あびこの魅力があふれ、にぎわいを生むまちづくり

(委員からの意見)

- ・数値目標の「転入者の数」の目標値が「増加を目指す」とあるが、人口推計などである程度数が把握できているのであれば、それに基づいた数値を入れた方が良いのではないか。
- ・手賀沼周辺のサイクリングは非常に気持ちが良い。レンタサイクルを休日だけでなく、平日も実施して利用率を上げれば、我孫子の自然の良さを感じてくれる人が増えるのではないか。

基本目標3. あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり

(委員からの意見)

- ・数値目標の「合計特殊出生率」は、社会情勢に影響される部分もあるので、子育て支援に対する満足度を加えることも考えられる。たとえば、県の総合戦略では、「子どもを産み育てやすいと感じる家庭の割合」が数値目標となっている。
- ・子育て世代が住みたい街は、病児保育が充実しているところ。近くに両親がいなくても引っ越してもらいたいなら、保育園はもちろんだが、病気になった子どものケアを支援できることが大事。
- ・子育てについては、男性に対する教育も重要。女性のみを負担がかかる状況では、子どもを産まなくなってしまう。

- ・保育所の延長は働く親にとってはとてもありがたいもので、実際に多くの親が利用しているが、これは子どもが親と家庭で過ごす大事な時間を犠牲にしている。本当に必要なのは、親が仕事から早く帰れること。そういう意味では、育児をする男性を支援している企業に対して補助があると良い。
- ・女性への教育として、産める体づくりについての知識をしっかりと教えるべき。不妊治療に税金をかけるよりも、行政コストは安くなる。
- ・K P Iの「子どものうち、あびこまつりに参加した割合」「子どものうち、げんきフェスタに参加した割合」については、もう少し目標値を上げて良いのではないか。
- ・K P Iの「不登校児童生徒への対応率」については、対応すればそれで良いわけではなく、対応したうえでそれに親や児童が満足しているかをはかるべきではないか。

基本目標4. あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり

(委員からの意見)

- ・数値目標の「転出者の数」については、基本目標2の「転入者の数」と同様、数値を入れた方が良いのではないか。また、地方創生の観点では、子育て世代や若者の転入増・転出減が望まれるので、この辺りの年齢層については、数値化しないまでも分析を進めていくべきである。
- ・災害が日中に発生した場合、街にいるのは高齢者と子育て中の親である。毎年実施する総合防災訓練も重要だが、この2つの世代を繋げるための防災の取組みがあると良いのではないか。
- ・K P Iの「我孫子地区公民館の年間利用率」「湖北地区公民館の年間利用率」については、もう少し目標値を上げて良いのではないか。
- ・K P Iへの反映は難しいと思うが、市が取り組むべき施策は、イベントに出たい人が出られる、本を借りたい人が借りられるなど、何かをしたい人がそれをきちんとできるようにすること。

【議題2】令和2年度施策評価について

→次回の会議に持ち越しとなった

【議題3】その他

→以下の点について、事務局より連絡

- ・いただいたご意見について、修正等を事務局で検討していく。修正した基本計画（総合戦略含む）は、今後の総合計画審議会にて示していく。
- ・例年実施している市長との意見交換会については、コロナの状況を勘案して実施の可否を決める。